

プレスリリース

男女共同参画学協会連絡会提言・要望委員会

2020年7月20日

報道関係者 各位

緊急事態宣言による在宅勤務中の研究者・技術者の 実態調査の結果・要望の公表について

新型コロナウイルスの感染拡大による緊急事態宣言が科学者・技術者に与えた影響について実態調査を行いました。その解析により問題点を抽出し、必要とされる支援や対策を早急に国や研究機関に要望するべく、解析結果の速報と要望を公表しましたのでお知らせします。

結果のポイント

- ◆緊急事態宣言時の制約から、回答者の約8割が今後の研究や教育に不安を抱いている
- ◆任期・契約期間付き職や学生は特に大きな不安を抱えている
 - ◇その不安の要因は、1)任期内に研究を遂行できないため評価が下がる、2)将来の雇用への影響、3)単位取得への影響、などであることが、自由記述より推定される
 - ◇留学を中断せざるを得なくなった学生やポスドクが、無給で研究を続けている、という自由回答も複数存在する
- ◆教員の8割超が、十分な学生指導を行えないことに不安を抱いている
- ◆家事・育児の負担が増え、勤務の支障となったという回答は女性に多い
 - ・ 調査時期：2020年5月15日（金）～6月13日（土）（総回答者数：11,112人）
 - ・ 調査対象：本会に所属する自然科学系学会の学会員・人文社会学系学会の研究者・技術者

これらの結果をふまえ、以下のことを国や研究機関に要望したいと考えます。

1. 研究費の執行期限の延長や研究報告書等の提出期限の延期など、研究遂行に関する柔軟かつ迅速な対応
2. 任期・契約期間付き職には任期の延長を、帰国を余儀なくされた者や学生には雇用の支援策を実施
3. ネットワーク環境の強化と、WEB会議やWEB学会の推進
4. 在宅勤務の拡充を推進
5. 大学等の職場での各種手続きのオンライン化の促進
6. 女性の家事・育児の負担増を解消するような意識変革の働きかけを積極的に推進

本件に関する問い合わせ先：

男女共同参画学協会連絡会 第18期幹事学会 E-mail : danjo_office18@djrenrakukai.org